

サイトワールド報告書

はじめに

皆さまの多大なるご協力、ご支援のもと、ふれてみよう！日常サポートから最先端テクノロジーまでをテーマとした、世界初のイベント『サイトワールド』は、出展者 47 法人の参加を得て、3 日間の来場者は約 7,000 名を数え、大成功と言っても過言ではないものとなりましたことを感謝とともに、まず、ご報告いたします。

幸いにして、不測の事故もなく、駅からの誘導案内など、多くのボランティアの皆さまのご支援・ご協力をいただき、また、本所警察署、JR・地下鉄錦糸町駅の皆さまにも最大限のご配慮をいただいたことに御礼を申し上げます。

来場者数は出展者の皆さまの予想をはるかに上回り、来場された皆さんは熱心に説明に耳を傾け、その熱意は出展者の説明員の方々の感動と驚きとなり、このようなイベントを待ち望んでいた方々がいかに多くいるかということを、改めて知らされたものとなりました。会期中、どの小間にも必ず来場者がいるという状況は想像を超えたものでもありました。

講演会、シンポジウム、アクセシビリティ・フォーラム、映画会、ライフサポート学会等のイベントも会場はほぼ埋まり、盛況なものとなりました。来場者・出展者・関係者すべてが主役となったサイトワールドで、双方向の交流が、斯界関係者含め皆さまに求められていることが明らかになったものと思います。

来場者は、北は北海道、南は九州沖縄と全国各地から来られ、社協、視協単位でバスで来訪されたところも多くあり、サイトワールドが視覚障害者だけでなく関係者、関心を持たれた方々にとって、情報の受発信の場としても期待されていることを参加者一同が共有したとも言えるものとなりました。

1. 開催概要

名 称	サイトワールド
テ ー マ	ふれてみよう！日常サポートから最先端テクノロジーまで
日 時	平成 18 年 11 月 2 日(木)～4 日(土) 午前 10 時～午後 5 時(最終日午後 4 時)
会 場	すみだ産業会館 サンライズホール 東京都墨田区江東橋 3-9-10 墨田区丸井共同開発ビル 8・9 階 (JR 錦糸町駅南口前)
入 場 料	無料
主 催	(社会福祉法人) 日本盲人福祉委員会 サイトワールド実行委員会
共 催	(社会福祉法人) 日本盲人会連合、(社会福祉法人) 日本盲人社会福祉施設協議会、全国盲学校長会、(社会福祉法人) 日本点字図書館、(社会福祉法人) 日本ライトハウス、(社会福祉法人) 視覚障害者支援総合センター
後 援	内閣府、経済産業省、文部科学省、厚生労働省、東京都、墨田区、埼玉県、日本経済新聞社、日刊工業新聞社、毎日新聞社東京社会事業団、朝日新聞厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、日本テレビ系列愛の小鳩事業団、NHK 厚生文化事業団、財団法人テクノイド協会、財団法人日本障害者リハビリテーション協会、ライフサポート学会、TORN イネーブルウェア研究会、中小企業家同友会全国協議会、(順不同)

2. 出展団体 (8階展示会場にて展示 47法人 アイウエオ順)

(株)アイフレンズ(大阪)、(株)朝倉メガネ(東京)、(株)アメディア(東京)、池野通建(株)(東京)、(有)エクストラ(静岡)、(株)キングジム(東京)、(株)計画技術研究所・NPOプロジェクトゆうあい(島根)、KGS(株)(埼玉)、廣済堂スピーチ販売(株)(東京)、(株)コーポレーションパールスター(広島)、(株)サンエ芸(京都)、(株)GLDパブリッシング(東京)、(有)ジェイ・ティー・アール(東京)、JBS日本福祉放送(大阪)、(社福)視覚障害者支援総合センター(東京)、(株)実業エージェンシー(京都)、シナノケンシ(株)(東京)、(株)タイムズコーポレーション(兵庫)、筑波技術大学(茨城)、(株)TNK(東京)、(株)電工社(岡山)、東京電力(株)(東京)、(株)トラストメディカル(宮城)、(株)ナイツ(東京)、(社福)名古屋ライトハウス・名古屋盲人情報文化センター(愛知)、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所(東京)、(株)日本テレソフト(東京)、日本電気(株)(東京)、(社福)日本点字図書館(東京)、日本福祉サービス(株)(東京)、NHK放送技術研究所(東京)、ヴォイステクノロジーズ(株)(長野)、松下電器産業(株)(大阪)、日本盲人社会福祉施設協議会盲人用具部会(東京)、樂市ブロードバンドソリューション(株)(東京)、(株)ラビット(東京)、レハ・ヴィジョン(株)(石川)、BAUM Retec AG(ドイツ)、CareTec GmbH(オーストリア)、CFROG Inc.(韓国)、Dolphin Computer Access Ltd.(イギリス)、HIMS Co.,Ltd(韓国)、Human Ware(ニュージーランド)、Low Vision International(スウェーデン)、PLUSTEK INC(台湾)、View Plus Technology(アメリカ)、Zychem Limited(イギリス)

3. 講演会、シンポジウム、フォーラム他の開催

- (1) 講演会:11月2日午後2時より『福祉工学の挑戦』講師 伊福部 達(東京大学 教授)
- (2) シンポジウム:11月3日午後2時より『支援技術のこれから』コーディネーター 石川 准(静岡県立大学 教授)
パネラー ジョン・ガードナー(オレゴン大学 教授)
- (3) フォーラム:11月4日午後1時30分より 『サイトワールド・アクセシビリティ・フォーラム』
コーディネーター 樽松武男(KGS(株) 社長)
発表者:「触知記号のサイズが識別容易性に及ぼす影響」 藤本浩志(早稲田大学 教授)
「真空成型による半立体触覚教材の作製と活用」 大内 進(国立特殊教育総合研究所)
「体表点字の研究とその応用について」 佐々木信之(筑波技術大学 教授)
「晴眼者との協調による発想の支援について」 湯瀬裕昭(静岡県立大学 助教授)
「生活支援情報データベースの構築と可能性」 竹下 亘(日本ライトハウス盲人情報文化センター)
「アメリカの視覚障害の現況」 ロナルド秀島(アメリカ リビング・スキルセンター インストラクター)
「ポケットタイプ点字ディスプレイについて」 鈴木義則(KGS(株)開発部 課長)
- (4) ライフサポート学会:11月2日午前10時30分より「視聴覚障害者バリアフリー技術研究会」公開学会
発表テーマ:「盲ろう者の歌唱訓練補助を目的とした触覚ディスプレイの開発」
「視覚障害者向け触覚ジョグダイヤルについて」
「文字利用が困難な高齢中途視覚障害者のための理療教育課程における学習支援システムの開発並びに普及に関して」
「事例紹介 頭部を利用した歩行誘導と手のひらを使ったコミュニケーション支援」
- (5) 国際的に初めての「体表点字」体験会:11月3日午前10時30分より 桜雲会・体表点字研究チーム
- (6) 「i-タッチ技術の応用及び新スクリーンリーダの紹介」:11月4日午前11時より (株)GLD パブリッシング
- (7) 「ウェブデザイナーと視覚障害利用者との交流会」:11月4日午後1時より (株)アメディア
- (8) 視覚障害者プライベートホームシアター体験会:11月2,3,4日各午前10時30分より 日本点字図書館
映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の音声ガイド付きDVDビデオの上映。
- (9) 箏 演奏:11月2日午後1時30分より 樽松志保美(宮城社大師範)

4. 開会式

11月2日午前9時50分より、会場エントランスにて、開会式を挙行、主催者を代表して 日本盲人福祉委員会 理事長 笹川吉彦よりご挨拶をいたし、墨田区長(墨田区社会福祉協議会会長) 山崎 昇様よりご祝辞をいただき、墨田区視覚障害者福祉協会 会長 加瀬三郎様とご三方で、テープカットをお願いいたしました。(司会進行は 樽松武男サイトワールド実行委員会委員長)

後援をいただいた団体より来賓として、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部企画課 地域生活支援室長 寺尾 徹様、読売光と愛の事業団 事務局長 斉藤勝久様、中小企業家同友会全国協議会 副会長 国吉昌晴様、埼玉県企業誘致推進室 室長 星野喜治様、日刊工業新聞社 川越支局長 佐藤雄一様をお迎えしました。

5. 会場概況

連日同じ傾向でありましたが、特に初日の2日は、開会式前から会場に多くの来場者があり、オープンとともに続々と来訪され会場は満員の盛況となりました。実行委員会による広報活動だけでなく、一般紙や NHK ラジオで報じられたこともあり、そして口コミによる関心は高まっていたが、盛況は予想をはるかに超え、事前に墨字のガイドブックを関係機関、団体を通じて配布したこともあって、会場の様子を知るガイドヘルパーさんの案内により、会場内各ブースは、それこそ人だかりの状況となりました。

「来た、見た、触れた、納得した」を体験していただくため、各出展者の説明員はじっくり説明することを本旨としていましたが、来訪者のあまりの多さに休憩も取れない状況が続きました。また、来場者の熱気はそれを上回るものがあり、製品やその機能、サービスに対する質問が堰を切ったように繰り出され、各ブースは熱気に満ちたものとなりました。

各出展者によると来場者は、説明に熱心に耳を傾けられ、製品・サービスに対する要望・希望を述べられる方も多く、誠に得がたい交流となったとの感想が、説明員スタッフより、実行委員会へも多く寄せられました。そして、来場者から製品、サービス利用の感謝が伝えられ、開発促進を励まされ、期待が多く寄せられたとのことでありました。

これは、いかに視覚障害者とその関係者が、「サイトワールド」のようなイベントを待ち望んでいたかを示すもので、出展者や実行委員会スタッフの想像を超えるものでありました。出展者の中には、カタログを急遽、取り寄せるところや、説明員を増員するところが少なからずありました。

来場者の中には、2日3日とくり返し来訪される方もあり、回収したアンケートにも2日に亘って来場したとの記述もあり、「来た、見た、触れた、納得した」を文字通り実践された方々は多いものと言えます。

確認されただけでもほぼ全国各地からの来訪があり、まさに北は北海道、南は九州沖縄となりました。地域の社会福祉協議会や、視覚障害者団体にはバスで来られたところも多くあり、視覚障害者やその関係者にとって全国的な関心事であったことがうかがえるサイトワールドとなりました。

6. 広報活動

「サイトワールド」の広報のため、出展希望もある程度に達した段階で、20,000枚のチラシとポスター1,000枚を制作し、共催団体を通じ、全国の視覚障害者関連の施設、団体、盲学校、点字図書館等に配布し、また、出展者からも関係団体、個人等への広報活動を実施しました。また、視覚障害者関連の大会、集会等の主催者から配布の申し出もあり、相当数の配布となりました。出展各社もそれぞれの企業活動のなかで、広報活動が展開され、日本福祉サービス(株)にあっては、同社にてチラシにSPコードの貼付を行い、広く参加の呼びかけを行いました。

実行委員会では、06年4月にホームページを開設、出展募集とともに「サイトワールド」情報を順次更新しつつ情報提供に努めました。また、日本点字図書館のテープ雑誌「にっぺんボイス」及び「ブックウェブ」にて、告知記事の掲載を行い、視覚障害者支援総合センター刊行の月刊誌「視覚障害」(5媒体出版・活字版、点字版、テープ版、フロッピー版、点字

メール版)にてもサイトワールドの趣旨等を報じることにより、視覚障害者や関係者の間に関心を高めてきました。

3月27日付け産経新聞、6月7日付け日刊工業新聞で報じられたことで、出展の応募もあり、また、関係者にサイトワールドの企画が一般マスメディアを通じる広報の端緒ともなりました。この間点字毎日の報道もあり、これらは、実行委員会の広報活動の側面からの支援ともなりました。このような情報発信や問合せにより、高まった関心は、NHK ラジオ第二放送の「視覚障害者のみなさんへ」で、10月1日(再放送10月7日)のサイトワールド特集として、また、10月20日のYBS ラジオ(山梨放送)で榎松実行委員長へのインタビューなどの放送により、一般への大きな広まりとなりました。

また、10月30日付け日刊工業新聞、会期前日の11月1日付け毎日新聞、同じく日刊工業新聞、会期中の11月3日付け読売新聞の報道は、サイトワールドに対する関心を更に高めるものとなり、会場の賑わいをもたらすものとなりました。会期中 NHK ラジオの取材があり、その録音構成が11月7日のNHK ジャーナルで放送されました。放送後、NHK にサイトワールドについての問合せも相次いだとのことで、会場で参加者が実感した以上に、サイトワールドへの関心の高さや反響の大きさを示したものだと思われまます。

このように、一般マスメディアにて取り上げられたことは、「サイトワールド」が視覚障害者や関係者を対象とするイベントに留まらず、健常者を含め、社会的にも理解や問題意識を共有するイベントとしての意義や、公益性を有することの理解が、企画段階から得られていたことを示しており、「サイトワールド」の成功は、公益とも合致し、その意義は時宜を得たものであることを示したものとと言えます。

7. 来場者数

会期中の来場者数 約 7,000 名

8. アンケート

会場出口付近にてアンケートを実施しました。希望者の応募によることとし、点字盤、墨字での自身による記入と代筆にて実施しました。回収は点字記入 28 件、墨字(代筆を含む)113 件 計 141 件でありました。会期終了後に電話や手紙で感想を寄せられる方もありました。

アンケートからも判明した来場者の所在地は、東京を始めとして、千葉、埼玉、神奈川、茨城、栃木、群馬、福島、岩手、宮城、静岡、愛知、岐阜、滋賀、大阪、奈良、香川、愛媛からの来訪が明らかになりました。

積極的にアンケートに応じられた方々の意見であり、苦言や注文なども多くありますが、良かったとする意見ともに多いのは、このようなイベントを毎年行って欲しいというものでありました。次回開催を求める意見は多くあります。

説明員の説明がわかりやすく親切であったとするものと、人が多く説明が十分に聞けなかったとする不満もあり、また、ガイドさんはタテ並びで被介助者の後ろに立つべきなのに、横並びで困るという意見とともに、ガイドにとっても貴重な体験で説明を聞いて、視覚障害者の状況が理解できたとするガイドさんのアンケートもあり、サイトワールドによる情報発信が、少なからず視覚障害者自身だけでなく、そのまわりの人にも大事な情報であったことを示しています。

来場者が予想を超えて多かったことは、少なからず十分な説明を受けられなかった人もあることは避けられないにしても、視覚障害者や関係者が、目的をもって来場されていたことが、アンケートからも明確になっています。

行政や福祉関係者に、このようなイベントにて、理解を深めて欲しいとする意見も少なからずあり、情報量や質に対する不満もあるものの、このようなイベントが過去になかったことから、継続と発展を期待する声は大きいものがあります。

海外から10社の出展がありましたが、これまで海外の機器に接する機会はほとんどなかったため、海外の製品状況の一端に触れることが出来たとする概ね好評なアンケート結果でありましたが、英語で説明され困惑した、日本語カタログが欲しいなどの声もありました。外国人の熱心な説明に感激したとの感想もあり、サイトワールドが国際的なイベントとして催されたことを示すものと言えます。

9. 会場案内設備について

点字案内板：日本で初の点字案内板を世に出した(株)サンエ芸より、サイトワールド展示会場のレイアウトを示す「点字案内板 BS-G 型」の提供を受け、会場入口に設置しました。

点字ブロック：点字ブロックのパイオニアの(財)安全交通試験研究センターの提供により、展示会場入口に「点字ブロック」を敷設しました。

音声案内システム：(株)計画技術研究所・NPO 法人プロジェクトゆうあいの提供で、「微弱電波音声案内システム “てくてくラジオ”」の発信器を各ブースに設置、ブース案内を AM ラジオでの受信を体験しました。

音声案内システム：池野通建(株)の提供により、「音声標識ガイドシステム」の発信器を、会場エレベータ付近、会場入口、トイレ付近等に設置、来場者の利便に供しました。

10. ボランティアによる誘導案内

墨田区と霊友会のボランティアグループの方々、延べ 162 名のボランティアに、錦糸町駅から会場への誘導案内、会場受付、会場内案内、アンケート回収等にお世話をいただきました。

	2 日	3 日	4 日	合計	
墨田区ボランティアグループ	36	43	34	113	
霊友会ボランティアグループ	15	17	17	49	
合計	51	60	51	162	延べ人数

4 日(土)には、中学生も先生とボランティア活動に参加され、ボランティア活動の裾野の広がり、参加を促された周囲の方々の配慮にボランティア精神の息吹と根強さを感じたものです。

11. 警察、駅関係

サイトワールド開催に先立ち、本所警察署、錦糸町駅北口・南口交番、JR 錦糸町駅、地下鉄錦糸町駅、日本中央競馬会ウインズ錦糸町警備主幹の方々に、サイトワールド開催の趣旨を伝え、交通警備等の特段のご配慮をお願いいたしました。それぞれの皆さまから、好意あるご回答をいただき、ご配慮のもと事故もなく無事に開催できました。

12. 設備工事

会場の小間設置、電気配線工事は、(株)ボックス・ワン、(有)坂田電気工事に委託しました。

13. 実行委員会発足と経過

そもそも「サイトワールド」は、平成 16 年 6 月 18 日の日盲社協 盲人用具部会の会合で、KGS(株)樽松社長より、視覚障害者関連の情報センターとして日本独自の展示会をとの発議から、盲人用具部会内にワーキンググループを発足させたことが発端にあります。ワーキンググループの何回かの会合を経て、平成 16 年 12 月 17 日の盲人用具部会で、盲人用具部会の主催とすると出展者の資格に制約も発生し、広く出展者を募ることに支障もあることが懸念されるため、視覚障害者(ユーザー)、機器提供者(メーカー)、研究者の三者を集約するには、実行母体は、盲人用具部会の枠を超えたものとして結成される必要がある旨の結論となりました。

これを受け、関係者、識者の奔走で、社会福祉法人 日本盲人福祉委員会を主催とし、別掲の「サイトワールド実行委員会」が発足しました。平成 17 年 1 月より会合を重ね、この間、趣旨に賛同の共催団体の協力を得つつ、開催場所の選定から、開催日時の決定、開催概要等策定し、平成 17 年 12 月に概要の発表に至りました。出展者の募

集と相俟って、後援をいただくべく関係官庁、有力諸団体への依頼等行い、前記の通りの 47 法人の出展と関係官庁並びに有力団体のご後援をいただいて開催の運びとなったものです。

14. サイトワールド総括

サイトワールド開催にあたり考慮した「開催日(平日と祝日)、交通至便、会場が狭すぎず、広すぎないこと」は、参加者の声としても、概ね好評であったと思います。2日は平日、3日祝日、4日土曜日の日程で、来場者にとっても予定の立てやすい日程であったようです。また、錦糸町駅前に会場があり、遠方からの来訪者や、地理不案内な方にも分かりやすかったようです。会場内は、来訪者が集中したこともあり、狭いのではないかという声もありましたが、出展者数からは適当な大きさであったと考えています。

「来た、見た、触れた、納得した」を体感していただくことを狙いとはしましたが、これは出展者や実行委員会の思惑をはるかに超えて、来場者の熱気として伝わってきました。各ブースにおける熱心なやりとりは、これらの情報をいかに視覚障害者や関係者が求めていたかということであり、ニーズの多様さと奥深さを改めて出展者や関係者に知らせるものとなりました。

実行委員会方式で従来の経緯にとらわれず、出展者を募ったことも、本業とは別に視覚障害者用機器を開発、アイデアを実現した企業の参加に道を開いたものとなりました。そのような出展者にとって、多くの来訪者との交流は、開発意欲をより高めるものとなり、来場者、出展者双方の成果ともいえます。

視覚障害者向けに配慮された商品、用具、機器などの生活・就学・就労に関わるものの出展、即ち、会場に出向けば、すべてのものに触れて、試して、納得できること、日本のみならず世界で流通している商品・機器の紹介は、概ね成功といえるものと思います。しかし、その質・量において、あれも見たかった、これも出して欲しかったという声もあり、ニーズに応える準備がより意識して用意されるべきとする課題を残したものと思います。

講演会、シンポジウム、ライフサポート学会、体表点字の発表、アクセシビリティ・フォーラム等の催しは、いずれも会場は満員盛況となり、会場が狭すぎるとのお叱りをいただくほどでした。研究発表の場にブースを出されたところや、公開学会として開かれたところなど、研究発表の方法にはいくつかのやり方がありますが、視覚障害者や関係者からは、視覚障害者関連でこれほどの研究が各大学や機関、法人、そして個人によって行われているのかという驚きの声もありました。とはいえ、研究発表のテーマもまだまだ限られた範囲であり、より広いテーマの発表の場として第一歩を踏み始めたものといえると思います。今回の発表以外にも、研究発表の場を得たいとする申し出もあったことから、サイトワールドがこのような意味でも情報発信の場であったことを示しているといえます。

「視覚障害者のイベントで映画会」と意表を衝いた催しとなった音声ガイド付き DVD での「ALWAYS 三丁目の夕日」の上映は、三日間満員の盛況でした。話題になった映画を見たいという方も多かったと思いますが、音声ガイドにより皆で映画を楽しむという体験は、情報の共有でもあり、情報には娯楽体験も含まれることを示しました。音声ガイドの作成に骨を折られている日本点字図書館の関係者にも励みとなったものと思われます。

サイトワールドガイドブックを事前に関連施設等にお送りし、またお申し出のあった団体等へ可能な限りお送りしましたが、これをガイドヘルパーの方々が事前に読まれ、視覚障害者を案内する参考にされるケースが多かったです。これも来場者が目的意識をもって来場される一助になったと思われます。目的のブースをまず訪れる方が多かったことから伺え、また講演会等の日時を確認されながらの来訪にもつながりました。

会場内では視覚障害者お一人でも安心して歩けると案内しましたが、それでも不安を表明される方もあり、一人歩きの不安を解消するため会場入口で「HELP カード」(黄色のカード)を配布し、もし、迷ったりした場合、高く掲げるよう願いました。それを見た説明員や案内係が駆けつけ、案内することにしました。予想より少ない数ではありましたが、掲げる方も案内をしました。これも試みとしては好評で、このようなイベントでの必需項目となる教訓となりました。

サイトワールド企画立案時の想定外のこととして、これだけの大勢の人が集まれば、沢山のゴミが排出されることは避けられないところですが、今回サイトワールドでは、まったくと言ってよいほどゴミがなかったことです。来場された視覚障害者のモラルの高さに、会館関係者からも驚嘆の賛辞が寄せられたほどです。出展者についても同様に撤収後の出展小間にも、ゴミはまったくありませんでした。出展者には予めゴミ持ち帰りをお願いしていましたが、来場者、出展者双方がこれほど徹底的にご協力いただけたことは、想定外のことでもあり、主催者として感謝に堪えません。

また、盲導犬の行儀の良さや、近隣レストラン等での視覚障害者の皆さんの行動は、新鮮な感動をもって迎えられたようです。これはとりもなおさず、視覚障害者の生活・行動についての理解を深めることにつながったものといえます。

「サイトワールド」が、出展者から来場者への一方通行的な情報伝達ではなく、双方向の情報交換・交流としてあり、かつ、近隣の方々の理解をも深めるという成果も得られたものと総括できるものと思います。

実行委員会の発足時から、開催概要の策定にいたる間の最大の問題は、出展者の出展費用と想定される収入だけでこのイベントの費用がまかなえるかということでした。出展応募がある程度に達しない場合赤字は避けられないためですが、赤字分は KGS(株)にて補填するという樽松社長の一言で、実行委員会は本格的に始動を開始したのが経緯です。サイトワールドの決算は、実行委員及び関係各位に最大限の努力をお願いしましたが、別掲の通りで残念ながら相当額の負担を KGS(株)に求めるものとなりました。サイトワールドの成功を喜びつつも、また、アンケート等で寄せられた希望、ニーズに応えようとすると、予算規模もふくらみ、今回のような出展者の持ち寄りによる方式で、次回を計画することは不健全の誇りを免れません。サイトワールドへの期待に応えるためにも関係者の一考を煩わせたく思います。

視覚障害者を取巻くインフラの整備の必要性や、全国的に見れば情報の偏りもあり、行政の方々を含め、理解を得たい方々は視覚障害者だけに限らないことも明らかになりました。継続的な開催や、地方での開催を求める声も多くあり、サイトワールドで示されたこれらのニーズにいかに対応すべきか、サイトワールド実行委員会だけでなく斯界関係者の課題でもありますが、このサイトワールドにより、その可能性の種は蒔かれたように思います。この種を皆さままで育てていただきますようお願いいたします。

15. 衆議院 厚生労働委員会委員長 櫻田義孝議員来訪

特筆すべきこととして、会期3日目の4日(土)に、櫻田義孝衆議院厚生労働委員長をお迎えしました。櫻田議員は、これまで内閣府副大臣等を歴任され、この9月に厚生労働委員長に就任されており、お忙しい公務の中の来訪となりましたが、田中日本点字図書館理事長(サイトワールド事務局長)が展示会場をご案内いたしました。PCやインターネットの利用の最先端技術から、色の識別や、案内ガイドの各種、コミュニケーション機器等の各ブースを見学いただき、視覚障害者の状況についてご説明しました。あるブースでは盲学校関係者から、ぜひとも盲学校にこのような設備をとの陳情もありました。この報告書にもありますが、政治や行政の方々にもっと理解を得たいという声は、サイトワールド来場者だけでなく、視覚障害者やその関係者に多くあります。そのような中、厚生労働委員長の要職にある櫻田議員にお出でをいただいたことは、まことに望外の喜びであり、視覚障害者や関係者の声は必ずや関係機関に届くことの希望を抱かせるものでした。議員には、サイトワールドへ深い関心を寄せられ、来訪いただいたこと深く感謝いたします。

16. 実行委員会構成

- 実行委員長 樽松武男 (KGS株式会社 代表取締役社長)
- 事務局長 田中徹二 (社会福祉法人 日本点字図書館 理事長)
- 実行委員 荒川明宏 (株式会社ラビット 代表取締役)
- 〃 岡村原正 (有限会社ジェイ・ティー・アール 代表取締役)
- 〃 近藤義親 (KGS株式会社 営業部長)

- ” 杉山 雅章（社会福祉法人 日本点字図書館 用具事業課長）
- ” 高橋 実（社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター 理事長）
- ” 武居 俊之（社会福祉法人 名古屋ライトハウス 名古屋盲人情報文化センター）
- ” 福岡 順作（株式会社アサツー ディ・ケイ:アドバイザー）
- ” 譜久島和美（社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 職員）
- ” 星川 安之（財団法人 共用品推進機構 専務理事）
- ” 望月 優（株式会社アメディア 代表取締役） （あいうえお順）

17. 連絡先

事務局: 〒169-8586 東京都新宿区高田馬場 1-23-4 社会福祉法人 日本点字図書館内
TEL 03-3209-0241 (代) FAX 03-3204-5641
連絡先: 〒355-0321 埼玉県比企郡小川町小川 1004 KGS(株) 営業部内
TEL 0493-72-7311 (代) FAX 0493-72-7337

18. 会計報告は別紙の通り

おわりに

サイトワールド開催に向けて、企画・準備段階から多くの方々のご支援・ご鞭撻をいただきました。サイトワールドの成功は、これら多くの皆さまと関係各位のご努力に加え、会場を熱気で満たした来場者の熱意・関心の高さであったと思います。すべての皆さまに感謝を申し上げます。そして、サイトワールドが新たに成長できますよう皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げ、報告書の結びといたします。

以上

添付資料

9 ページ: 会場情景写真

10~12 ページ: 一般紙報道資料